

平成30年度第2回高梁市総合教育会議 会議録

1. 招 集 平成30年11月26日 午前9時30分
2. 開 会 平成30年11月26日 午前9時30分
3. 閉 会 平成30年11月26日 午前11時00分
4. 会議の場所 高梁市図書館 4階多目的室
5. 出席、欠席した構成員の氏名

氏 名	出欠の別
近 藤 隆 則	出 席
小 田 幸 伸	出 席
川 上 は る 江	出 席
吉 川 昭	出 席
渡 邊 あ り さ	出 席
藤 井 祥 生	出 席

6. 会議に出席した者の職氏名

職 名	氏 名	備 考
政 策 監	前 野 洋 行	
教 育 次 長	大 場 基 成	
健 康 福 祉 部 長	宮 本 健 二	
参 与	田 村 啓 介	
秘 書 広 報 課 長	川 内 野 徳 夫	
こ ど も 未 来 課 長	赤 木 憲 章	
教 育 総 務 課 長	大 福 克 志	
学 校 教 育 課 長	石 原 洋 重	
社 会 教 育 課 長	渡 辺 丈 夫	
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	川 上 啓 二	
文 化 セ ン タ ー 所 長 代 理	原 田 貴 子	
教 育 総 務 課 総 務 係 長	村 上 靖 恵	

7. 協議題

- (1) 園における特別支援教育の充実について
- (2) 成羽複合施設（仮称）の建設について
- (3) 成羽こども園（仮称）について

8. 議事の概要

- 1 開会
- 2 あいさつ（市長）

第1回の総合教育会議を5月に開催し、いろいろと協議させていただいたが、その後、未曾有の災害となった7月豪雨によって、前回会議のときと少し状況が変わってきている。公共施設等の復旧については、順次、災害査定を受けているところであるが、国の査定作業が追いついておらず、まだまだ復旧事業に着手できない状況である。また、復興計画を3月の完成を目標に策定中である。

災害復旧予算が95億円超、災害支援予算を加えると約110億円となる見込みで、一般財源の乏しい高梁市の財政状況からは、不要不急の事業、無駄の見直しは避けては通れない状況である。とはいえ、必要な事業や継続的な事業に関しては、今ある予算の中で執行していく考えである。本日の議題にある成羽複合施設についても、早い段階で事業化し進めてきたもので、事業を延期した場合の消費増税に伴う経費増も比較検討した上で、継続事業の一つとしている。

現在、幼児教育・保育無償化の話が出ているが、当初は国の全額負担としていたものを、市町村に対して4分の1の費用負担を求めてきた。保育園の運営に係る経費は、これまで交付税措置での国の保障があったが、今後は消費増税によって市町村に入ってくる財源で費用負担せよとのことである。高梁市においても、消費増税分の2%の増収は見込まれるが、それ以上に支出が増加することが想定されている。高梁市も含め、財政規模の小さい自治体では、増加分の費用をどこで工面するのかということが大きな課題となり、何かを削らざるを得ない状況も出てくる。教育行政施策を後退させるつもりはないし、これからも進めていかななくてはならないと思っているが、工夫の必要はあると考えている。

高梁市の5歳未満人口が現在約1,000人と、非常に少なく厳しい状況である。この子どもたちが大きくなり高校に進学するころには、一つに市内の県立高校の存続問題が出てくる。市教育委員会に直接関係するものではないが、県立高校の存廃は地域にとっては非常に大きな課題である。まずは高校の特色づくりが求められており、今から取り組まなければ県の再編検討の時期には間に合わなくなる。市としても連携していきたい。

先般、NHKの番組で、健康を維持するために読書が良いと、AI技術を使って導き出されたデータとして紹介されていた。12年間3,600人の追跡調査の結果ということで、子どもたちがよく読書をして健康である学校の事例も紹介されていたが、本を読む大切さが改めて認識されたものと思う。読書する人と全く読書しない人では、寿命が2年違うというデータもある。高梁市では、ブックスタートのほか、セカンドブック、サードブックと、子どもたちの節目ごとに本を贈る事業も進めている。また、子どもだけでなく大人に対しても、例えば定年などのタイミングで、読書のための何らかのきっかけづくりが必要かとも思っている。本日の会場である図書館や巡回図書、学校図書室などあらゆる場を活用して、読書の推進にも取り組んでいきたいと考えている。

本日は、新たに教育委員に就任いただいたお二人を交え、初めての総合教育会議となる。高梁の教育をますます発展させ、子どもを高梁に預けようと思ってもらえるまちを目指したい。教育委員の皆さんにも、学校教育、生涯学習の面からいろいろなお提言をお願いする。

3 協議題

学校教育課長	別紙資料により「(1) 園における特別支援教育の充実について」を説明
市長	高梁市では就学前教育にも重点を置いて取り組んでいるが、資料にもあるように、何らかの支援の必要がある子どもが半数を占める状況にある。厚生労働省の考え方は、全てフラットに、普通学級へという方向性である。果たしてそれでいいのか、就学前の子どもの支援教育をどのように考えるかということについて、現在、国とも議論しているところである。
吉川教育委員	有識者による「高梁市就学前教育を考える会」を立ち上げるということで、今までそのような取り組みはなかったと思う。就学前教育の充実ということでは、また一步前進していくのではないかと期待するところである。また、現在の取り組みの中で、就学前指導アドバイザー2名が、幼稚園、保育園、こども園へ年間100回を超える計画訪問、要請訪問を行っているということであるが、さらなる充実に向けて、アドバイザーの増員、あるいはアドバイザーを支援するスーパーアドバイザーの設置などは検討できないか。
市長	ご意見と同じような思いは持っているが、今後の課題としてお伺いしておく。
川上教育委員	先般、高梁幼稚園で就学前教育保育課程研究発表会が開催されたが、市内の先生が一斉に参加ができたこともよかったし、参加した先生からも充実した研修だったと聞いている。小学校では個別の支援計画や指導計画を、担任を中心に作っていく体制が整えられていると思うが、幼稚園においてもそのような体制が整えられていくのか、今後の見通しを教えてほしい。
学校教育課長	小学校、中学校、高校については継続した流れの中で、必ず引継ぎを行い、作った計画をそのままにしないようにしている。また通常学級でも、支援の必要がある子どもは、全て計画を作るよう取り組んでいるところである。就学前と小学校の接続ということが、昨年度から特に重要視されているので、今後、幼稚園でもそのような方向で進んでいくと考えている。
教育長	幼稚園でも計画は作られているが、現在は様式が異なっており、引継ぎにおける課題でもある。情報を共有するために作る計画であるので、学校と教育委員会でも共有し、必要に応じて福祉関係との共有も行わなければならないと考える。いずれは様式も統一して、就学前から高校までの引継ぎをスムーズにし、また関係機関と家庭を容易につなぐことができる形に持っていきたいと思っており、その方向へ進んでいっていることは確かである。
川上教育委員	今回の学習指導要領の改訂に伴って、国の施策の大きな視点として特別支援教育が挙げられており、個別の支援計画や指導計画をきちんと作るということも示されている。教育長の発言にあったように、幼児教育に至るまで同じような形式での計画ができて、特別支援を要する子どもに関しても、支援計画、指導計画が幼稚園からずっとつながるような形になれば、さらに充実していくと思うので見直しを持って進めてほしい。
渡邊教育委員	こうした取り組みが組織的、大々的に行われるということは、今後、特別支援ということが、何も特別なことではないというイメージにつながっていくのではないだろうか。できれば、療育を必要としている子どもというくくりではなく、

教育長	<p>子ども一人ひとりに対しての心配りや連携、また地域が子どもを育てるといったイメージでのスタートになっていけば、より良いのではないかと思う。</p> <p>幼稚園での通級指導教室や特別支援学級のような取り組みは、岡山市などではすでに行われている。考える会での意見も踏まえ、予算の範囲内にはなるが、すぐできること、今後検討していくことを見極めながら取り組んでいきたい。豪雨災害で財政が厳しい中ではあるが、工夫次第でまだまだ前向きに取り組む余地があると思っている。</p>
社会教育課長	別紙資料により「(2) 成羽複合施設 (仮称) の建設について」を説明
渡邊教育委員 社会教育課長	<p>駐車場は何台程度の規模となっているのか。</p> <p>これまでは、成羽美術館も含め約100台であった。新施設については、借地部分の返却により約90台となるが、隣接するコンビニエンスストアとの間で、混雑時の駐車場利用協力の協議が整った。また将来的には、現在の地域局舎を解体した跡地の利用も検討できると考えている。</p>
市長 吉川教育委員	<p>コンビニエンスストアの間にあるフェンスも撤去する予定である。</p> <p>ホールを可動席とした理由や活用方法をどのように考えているのか教えてほしい。また、施設の名称は公募するのか、内部で決定するのか。</p>
社会教育課長	<p>文化ホールとしては固定席の方が良いのではないかと意見もあり、議論を重ねたところである。席数が250席であるため、いろいろとイベントを招致した場合にも採算が取れる規模ではないこと、また新施設には、もともとあった福祉センターや文化センターが有していた機能も統合するため、それら施設の利用方法を勘案し、例えば会合や子どもたちの活動など、ホールを可動席とすることで多目的に活用ができるという結論に至った。可動席に関しては、岡山イオンホールを参考とし、寄附者の伊藤氏と現地を確認したが、リモコン操作により3分程度で出し入れもでき、作業自体は負担になるものではないと考えている。施設の名称であるが、ホール部分については、寄附者の意向も踏まえたサインを設置する計画としている。施設全体の名称については、今後、施設の設置条例を制定していくが、名称の決定方法については検討中である。</p>
渡邊教育委員 社会教育課長	<p>成羽歴史史料館に収蔵されている多くの備中神楽史料はどうなるのか。</p> <p>現在、文化センターの2・3階に収蔵している史料の整理を進めているところであるが、新施設の収納スペースにも限度があり、全てを移すことはできない。新施設の図書室のほか、歴史美術館など市内の他施設での保管も考えていく。</p>
渡邊教育委員 社会教育課長	<p>新施設には、備中神楽の継承のためのスペースは、特には設けられないのか。</p> <p>専用スペースは考えていないが、舞台はいろいろな形での活用を想定している。また、備中神楽専用施設としては、日名地区の交流館かぐらを中心に活用いただくことも良いのではないかと考えている。</p>
市長	<p>文化センターホールについては、神楽の奉納を意識した造りとなっている。このホールと日名交流館の2施設が備中神楽のメイン施設となると考えている。</p>
渡邊教育委員 社会教育課長	<p>現在の図書館と公民館は解体となるのか。</p> <p>文化センターは一部アスベストが使用されているため、文化センターホールを除き、早期の解体が必要である。跡地活用については、まだ検討段階である。</p>

市長	新施設のホールについては、文化性を持たせるとの寄附者の意向も踏まえつつ、可動席の採用により多目的な活用ができるものと期待している。今後は、運営面をどうするかについての検討も必要となる。
こども未来課長	別紙資料により「(3) 成羽こども園 (仮称) について」を説明
市長	説明のとおり、幼保連携型認定こども園と養護老人ホームとの複合施設となっている。全国でも、まだ先行事例が少ない施設である。
藤井教育委員	新しいこども園の定員は120名ということであるが、現在はどれくらいの子どもたちが通っているのか。
こども未来課長	定員は鶴鳴保育園が90名、成美保育園が45名で、実際の通園者は鶴鳴保育園が100名弱、成美保育園が約30名である。新施設の定員を若干超えるが、定員の2割までは入園できるとなっているので、運営は可能と考えている。
藤井教育委員	今後、企業誘致も進めていくのであれば、定員が少ないのではないか。
こども未来課長	現在の年間出生数は140～150人で、5歳未満が約1,000人である。8割がどこかの園に入園できる状況であり、全体を勘案し、保育ニーズの高まりを踏まえても、成羽地域では120名でも運営可能と判断したところである。
渡邊教育委員	車による子どもの送迎を考えた場合、登り坂部分の道幅が狭いため、車の対向が難しいのではないか。
こども未来課長	拡幅工事を行い、以前よりも道幅を広げて5m幅としており、車の対向は可能と思われる。
渡邊教育委員	徒歩での送迎も考えられるが、安全対策は検討しているのか。
こども未来課長	徒歩の場合、車が通る道を通ってもらうことは危険であるので、階段を使用してもらう経路を検討し、外構工事と併せての整備を考えている。
市長	運用については、開園してからの改善も必要になると思われる。こども園と養護老人ホームとの複合施設として、どのように活用するのかということも重要となる。施設には、1階の中央付近に交流スペースを設けている。園児と老人ホームの入所者との交流をいろいろな形で考えていかなければならない。
川上教育委員	15年ほど前に派遣されたデンマークで、老人ホームと幼稚園が併設された施設を視察したが、入所高齢者がとても生き生きとして、子どもたちとの交流を楽しんでいた。日本でもそのような施設ができればいいのにとずっと思っていたので、今回、こども園と養護老人ホームの複合施設ができるということは素晴らしいことだと思う。また、各地の幼稚園を視察すると、子どもの五感が自然の中で発達していくことを踏まえ、自然豊かな園庭となっているところも多い。園庭にはいろいろな遊具も設置されるようであるが、園児が高齢者と一緒に花を植えるなど、自然を取り入れた交流ができれば良いのではないだろうか。身近な園庭に自然があれば、子どもたちにとっては科学的な気付きも多く、五感の発達も促し、また高齢者との交流の中で学ぶことも多いと思う。
市長	下にあるグラウンドを使う予定はないのか。
こども未来課長	こども園の管理ではないが、園児が遊びに行くといった使い方はできると考える。また、園庭の中にも花を植えるようなスペース、大きめのプランターを設置する計画である。

市長	グラウンドもきれいに整備する予定であるし、隣の体育館も改修中である。
藤井教育委員	現在ある2つの老人ホームはどうなるのか。
市長	今回の成羽長寿園の整備に当たり、現行施設は解体しなければならない条件となっているので、更地に戻すことになる。
藤井教育委員	跡地については、売却など考えているのか。
市長	そこまでは何も決まっていない状況である。何か良い案があればご提案いただきたく思う。現在の長寿園のある場所は急傾斜地であるので、市が分譲するというのもなかなか難しいとは思っている。
藤井教育委員	厳しい財政状況の中での施設整備である。不用地の売却など、財源確保にも努めてほしいと思う。
吉川教育委員	園庭の幅が若干狭く、細長い形状であるので、運動会を行うことが難しいのではないかと心配しているがどうか。
こども未来課長	園庭の形状が細長いため、確かに運動会のトラックを作る場合に遊具に当たる心配もある。下のグラウンドや隣の体育館を使用するという選択肢もあるが、園庭で運動会を行えることが一番良いとは考えている。コンビネーション遊具は移動できないが、鉄棒などの安全柵は可動式となっているので、可能な限り園庭で行える方法を検討したいと思っている。

4 その他

渡邊教育委員	幼稚園・保育園・こども園の入園申込書は、第3希望まで必ず記載しなければならないが、自分の経験も踏まえ、保護者の皆さんが非常に悩まれるところであると思う。保育、教育という施設特性の違いもあるが、制服や持ち物が全ての園で異なっているということも躊躇する要因の一つではないかと思っている。川上こども園のものを買い揃えたので、今から成羽こども園への希望は出せないという保護者の方もおられた。もし同じ制服であれば、多少なりとも出費が抑えられるので、遠くても違う場所のこども園も選択してみようとか、保護者の気持ちの上でのハードルも下がるのではないだろうか。段階的にでも、制服などの統一といったことは検討できないか。
市長	統一すれば園の個性がなくなるということもあるが、実態を調べ、一つの課題として研究してみたいと思う。
吉川教育委員	出身地の吹屋にほぼ毎日帰っているが、週末には多くの観光客が訪れている。カメラマンや絵を描く人から、石州瓦の町並みが見渡せる場所はどこなのか、そこに行きたいとよく質問を受ける。撮影場所である吹屋連絡所の屋上は登るのが危険で、撮影するには特別な許可が必要となっている。吹屋の有志たちとも相談しているのだが、誰もが気軽に登ることができる、町並みを臨む展望台が設置できないだろうか。重要伝統的建造物群保存地区としての文化庁の規制もあり、さまざまな面での制約はあると思うが、住民も知恵を出し合うので、行政からも後押しなりアドバイスなりもらえればと思っている。
市長	吹屋地区の皆さんにも一緒になって考えていただく必要があると思う。備中松山城の展望台にしても、いつも雲海が見えるわけではないし、一日たりとて同じ状態はなく、そこに特別感があるのだと思う。吹屋の展望台もやろうと思えば早

	<p>期に実現できると思うが、毎日いつでも簡単に家並みが見えてしまうと、逆に面白みがなくなるということもあるのではないだろうか。どのようにアピールしていくのか、どのようにプレミアム感を加味していくのが重要である。より多くの人に訪れてもらうために、地域の皆さんと一緒に考えていきたい。</p>
藤井教育委員	<p>山田方谷のアニメーションDVDを製作されていると思うが、活用方法など今後の計画があれば教えてほしい。</p>
学校教育課長	<p>DVDは150枚製作しており、市内の学校の子どもたちに山田方谷について学んでもらうため、道徳や総合的学習で活用してもらうことを第一の使用目的としており、新見市の関係学校にも配付している。各市の観光協会へ配付しているほか、図書館での貸し出し、ユーチューブでの配信も行っているところである。</p>
教育長	<p>整備中の山田方谷記念館でも映像を流す予定である。</p>
藤井教育委員	<p>高梁市として全国的に山田方谷を広めようとしているのでもあるし、対外的なPRの材料として活用する方法も考えてもよいのではないかと思う。</p>
市長	<p>貴重なご意見感謝する。学校においては、山田方谷をはじめ、有漢の綱島梁川など、高梁の多くの偉人を学んでもらう中での一つの方法として、今回のDVDの教材活用となっているものである。</p>
渡邊教育委員	<p>子どもたちが気軽に学ぶには、郷土の偉人かるたも面白いのではないか。高梁市だけではなく、高梁川流域全体の事業として取り組んでも良いと思う。</p>
市長	<p>いろいろな方法があると思うので、ご意見も参考に検討していきたい。</p>

5 閉会

あいさつ（市長）

<p>一番の基礎は「人づくり」だと考えている。子どもが将来大きくなったときに、胸を張って「高梁出身」と言えるよう、また周りからも「高梁の子どもは素晴らしい」と言ってもらえるよう、子どもたちを育てていきたいと思っている。</p> <p>高梁市の高齢化率は40%を超えているが、健康寿命は県の目標をすでに上回っており、健康な高齢者が多い。市内の65歳以上で支援を要する人は約5%、75歳以上でも約20%である。そうした元気な高齢者の皆さんが活躍できる場をこれから考えていく必要もある。</p> <p>法律の改正により、市長と教育委員の皆さんの協議の場として開催するのが、この総合教育会議である。「人づくり」を共通認識として、いろいろと見ていただきながら、改善すべきところ、改良すべきところ、教育にとどまらず、今後も教育委員の皆さんからご意見をいただきたい。</p>
--